



小学部 全校授業研究会実施

小学部4年の生活単元学習で全校授業研究会が行われました。オンデマンド形式での全校授業研究会にしたため、県外からも多数の参加がありました。今回は、当日の様子を中心にお伝えします。

小学部4年 生活単元学習 チャレンジ8～たたみ名人になって2年生を助けよう～



<授業者のしかけ>

話し合い活動のグルーピングを工夫

～全員が話し合いに参加できるよう、中心となり進める児童、友達の話を聞いて考えをもつ児童、友達の意見の中から意思表示する児童を配置～



<児童の様子>

- ・話すことが得意な児童は自分の意見を伝えるだけでなく、「〇〇さんはどう?」「どっちがいい?」と友達に問いかける姿が見られた。
- ・友達の意見を聞いて同意や意見をしたり、複数の意見から選択したりしながら自分の考えを伝えることができた。



<授業者のしかけ>

どんな教え方が分かりやすいか考えられるよう、教師が悪い例を演示
～児童が自分で課題に気付くために～



<児童の様子>

- ・教師が話し方、畳み方などの悪い例を行ったことで、「声が小さい」「聞こえない」「見えない」など自発的に気付いたことをつぶやいていた。そのつぶやきに対して「どうしたらいいかな?」と発問すると、「大きな声」「気を付けの姿勢」などと答えており、どうしたら分かりやすいか考えることができていた。



<授業者のしかけ>

めあてや話し合いの内容につながる場面でのICTの活用
～教師の演示を事前に録画し、大きなモニターで提示～



<児童の様子>

- ・モニターに映したことで注目して見ていた。
- ・話し合い活動の際に、何度も見返したり、注目してほしい部分を止めたりしながら見たことで、自分の考えを整理して伝えることができた。



<授業者のしかけ>

視覚的教材の活用

～話し合い活動で、児童の意見を引き出すために、児童の実態に応じてイラストカードや静止画を提示～



<児童の様子>

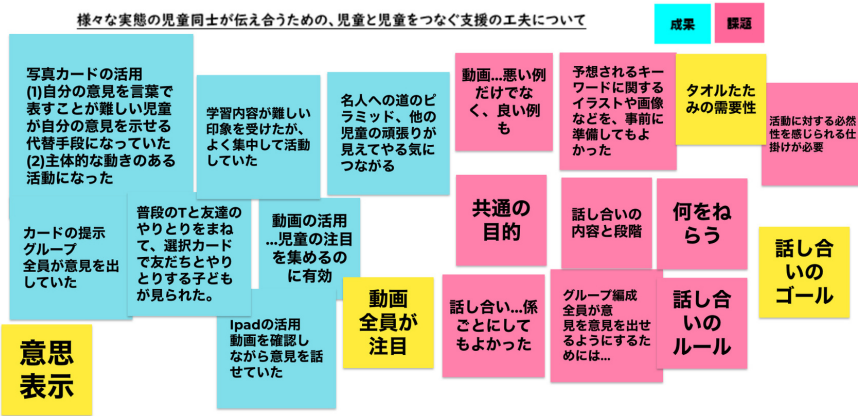
- ・教師の演示の録画や話だけでは理解が難しい児童も、イラストや絵を見て自分の考えを思い付いたり、選択して伝えたりすることができた。

授業研究会のその後の様子

7月19日に2年生にタオルの畳み方を教えるに行きました。お話し係、見せる係、お手本係に分かれ、それぞれ自分が担当する係に取り組み、タオルの畳み方を演示したり、説明したりすることができました。



様々な実態の児童同士が伝え合うための、児童と児童をつなぐ支援の工夫



- 【協議で話題になった主な内容】
- ・見本の提示が児童同士の気付きにつながった。
 - ・効果的な動画の活用の仕方。
 - ・話し合いのねらいをどうするか。
 - ・話し合いにツールやルールが必要。
 - ・メインの活動は何か、何を児童に学ばせたいか。
 - ・単元構成や教師の役割。

【今後に向けて】

- ・2年生に教えるために行う実演をみんなで評価する。
- ・2年生に教えるシミュレーションを通して様々なことに気付けるようにする。
- ・相手に伝え、伝わった経験を基に、伝わるために何が必要か考える。
- ・子ども同士が学び合うために、児童の意見を大切にします。
- ・子ども同士が自分の意見や考えを伝え合う活動を積み重ねる。
- ・話合ったことをすぐに体験、経験する場を設定する。
- ・教師の支援を減らし、子どもに任せる場面を作る。
- ・児童の実態等から話し合いの内容を工夫する。



講評 秋田大学教育文化学部 名誉教授 武田 篤先生

【講評】

- ・特別支援学校ではあまり見ない「秋田の探究型授業」と言われる授業の形式であった。「導入でのめあての提示（今日は何をやるのか）→課題解決（自分でまず考える自力思考）話し合い活動→今日のまとめと振り返り→次への課題」となっている。
- ・授業の基本形を自分でもっていた方が授業を考えやすい。探求型の授業のスタイルにすることで、秋田は学力を向上させてきた。基本的な授業づくりは秋田の探求型授業を参考にできる。
- ・授業者に一番盛り上がったところを尋ねると「演示をした先生が動画に映ったところだった」という話があった。動画のおかげで話し合いのイメージができて、盛り上がったと思う。
- ・置くスキルを学ぶわけではなく、そこがゴールではない。アクティブラーニングの考え方で、教師はどのように実現していくかが重要である。世の中で期待されているのは、一人一人の知識ではなく、チームで集まることで一つ違う次元のものを生み出していくことだと思う。
- ・様々な実態の児童がどう学び合いをしていくのか。動画の使用、文字による提示、動画だけでは分からない児童には、さらにイラストで視覚的に提示するなど生徒たちが児童の理解を助ける工夫をしていた。理解できなければ何を選んでいいかも分からないと思う。
- ・これから頑張ってほしいことは、理解だけでなく、「自分がどうしたいのか、自分の思いを表出する」ということを大切にしてほしい。言葉の話さない子、表出がうまくできない子どもをいかに話し合い活動に参加させるのか。表出させるための努力を今後、続けて行ってほしい。
- ・自分の思いを伝えられるように、「あなたの言うことを尊重しますよ」ということを徹底して続け、教師が通訳者、代弁者になって子どもの思いを広げ、みんなに伝える。思いを大事にして相手を尊重すると、お互いハッピーになれると思う。